

道徳のかけ橋

令和6年7月発行
第29号
福島県教育庁
義務教育課

道徳教育推進教師

組織的取組

困り感

強みを生かす

込められた思い

R5推進校の取組

『あなただからこそできる』道徳教育推進教師 ～自分の強みを生かす～

道徳教育推進教師とは？

道徳教育推進教師とは、一言で言うと「学校の道徳教育の中心的な役割を果たす教師」のことです。

道徳教育推進教師を中心に、自校の実態や課題等に応じて、学校として推進すべき事項を明らかにした上で、実効性のある指導体制を構築し、全ての教師の協力の下、組織的に道徳教育を推進することが大切です。

こんな悩みや迷いはありませんか？



Q:そもそも、私にできるのでしょうか…
→「A-1」へ



Q:何から手をつけたらよいか分かりません…
→「道徳の礎」p21へ



Q:どんな取組がありますか？
→「A-2」へ

A-1: あなたの「強み」を生かして、『あなただからこそ』の推進をしていきましょう

「任された役割をしっかりと行いたい」という道徳教育推進への思いを胸に秘めながらも、道徳教育推進教師の役割が広範囲で多岐にわたるため、「どうすればよいのか…」という悩みや迷いが生じている先生方は多いのではないのでしょうか。そこで提案です。あなたの得意なことや好きなことといった「自分の強み」を、道徳教育推進教師としての取組に生かしてみませんか。『あなただからこそ』できる道徳教育の推進へのきっかけを次の中から見つけてみましょう。

学習指導要領（第3章 第6節 1（1）道徳教育の指導体制）

- ・ 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ・ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ・ 道徳科の充実と指導体制に関すること
- ・ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ・ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ・ 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- ・ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ・ 道徳教育における評価に関すること など

同僚と一緒に考える【アドバイザー】

道徳科の効果的な指導法や指導案の検討、アドバイス

推進の雰囲気をつくる【ムードメーカー】

学校全体に推進への意気込みや雰囲気を醸成する

集める・記録する【コレクター】

必要な教材・場面絵、ワークシート等の収集や累積

伝える・広げる【スポークスマン】

理解と協力を得るための資料や広報誌の発行、説明

「自校ならではの」をつくる【デザイナー】

重点目標の設定、特色を生かした推進を構造的に描く

道すじを考え提案する【プランナー】

全体計画や年間指導計画の作成、授業研究会の企画

改善の方向を示す【ナビゲーター】

目標に向かっていく見届け、導き、評価して改善する



フォロアーのススメ ～推進は「独り」よりも「教職員みんな」で～

道徳教育推進教師が役割を全て独りで担うには限界があります。ぜひ、皆さんがそれぞれの立場から道徳教育推進教師をフォローして「チーム」で推進していきましょう。



A-2: 令和5年度 道徳教育推進校は、こんな取組をしていました 詳細は「道徳の礎」を参照ください

令和5年度の道徳教育推進校では、様々な組織的取組が行われました。道徳教育の推進を主に担当している教師や校長先生がどのような取組をどんな思いで行っていたのかをご紹介します。



より一層推進するための、参考になる取組はあるかな？



「思いをつなぐ」「教師も自分事として」～道徳教育推進教師の思い～ (令和5年度)

【玉川村立須釜小学校 道徳教育推進教師】

道徳教育推進教師として、年度初めは不安でいっぱいだったが、学校全体で道徳教育に取り組んでみて、その大切さ・奥深さを感じた。推進教師として二つの思いがあった。一つは、「みんなと授業を共有したい」ということ。授業の資料や道徳的価値について、みんなで考えて構想シートをつくったり、授業後の事後研究会で自由に話し合ったりすることを大切にしてきた。もう一つは、「子どもの実態を一番知る授業者の思いを大切にしたい」ということ。授業者の思いと先生方の考えをつなぐこと、経験年数に関係なく、授業について自由に語り合う場をつくることを意識して取り組んだ。

【南相馬市立原町第一中学校 道徳教育推進教師】

心がけたことは、組織的に道徳教育を推進することだ。そのために、先生方にどのように道徳教育に関わってもらおうかを意識してきた。道徳の授業はもちろん、ゲストティーチャーとしての役割を果たしたり、授業改善の視点を明確にして道徳の授業について話し合ったりすることができるようにした。一人一人が担任、担任外に関わらず自分事として道徳の授業について考えることができるようにしたいと考え、実践に取り組んだ。

「管理職も一緒に」「『やっpegらん』と背中を押す」～校長の思い～ (令和5年度)

【玉川村立須釜小学校 校長】

先生方に、学校全体で取り組む道徳教育であることを伝え、特別なことを始めるのではなく、今まで取り組んできたことを振り返り、道徳教育の視点から取組を価値付け、よりよい取組にしていく過程を紹介していこうと働きかけた。まず、管理職も一緒に、研究の取りかかりとなるように「先生方の道徳の授業を撮影し、アーカイブにしての互見授業を進める」「推進教師とともに、より使いやすく、これからも使い続けられる別業の形式を提案する」「授業の構想シートづくりに管理職も参加する」ことを行った。さらに、学校の道徳教育を地域や保護者に知ってもらうために「参観日の全体会で保護者に道徳科の授業体験(校長が授業者)」「来校者に学校の道徳教育を知ってもらえるよう、校長室・職員室付近に道徳コーナーを設置」「学校だよりを通して学校で推進している道徳教育の様子の発信」に取り組んだ。

【南相馬市立原町第一中学校 校長】

心がけてきたことは、道徳教育推進教師をはじめとした先生方の主体性を大切にすることだ。教師が「やってみよう」と考え、提案してきたものを受け止め、県の施策や学習指導要領を踏まえた指導助言をしつつ、どのようにすれば提案した教師の思いが実現できるかを考えてきた。先生方が「できるかな」と感じている背中を「やっpegらん」とポンと押してやり、その中で多くのことを学んでほしいと考えている。

「指導を振り返る」のススメ ～2学期を見据えた組織的取組～

目の前の子ども達の姿について、全教職員が集まる会議等の際に、「育てたい子どもの姿」や重点内容項目に照らして、これまでの指導を振り返ってみましょう。

その上で、別業を活用して「いつ(授業や行事等)」「どのような」指導をすれば、子ども一人一人の道徳性を養うことにつながるかをみんなで考えてみましょう。

参考になる取組が満載！



道徳の礎

(各学校に2冊配本)